



2. 連絡会議の開催

2 - 1 連絡会議の開催方針

(1) 開催目的

街道の持つポテンシャルの再認識 & その活かし方を考察する場の設置

基礎調査の結果報告

街道ごとの機能・役割、整備実態、観光の実態、広域連携資源の実態等を整理し、街道の持つポテンシャルを再認識するためにとりまとめた基礎調査結果をもとに、街道及び地域の歴史資源を活かしたまちづくりについて情報の共有化を図るために、連絡会議を開催する。

連絡会議は、広域首都圏 1 都 11 県内のすべての市区町村を対象とし、当該業務で調査した街道が通っていない市区町村にも参加を呼びかけ、幅広い意見交換を促すこととした。

街道の持つポテンシャルを活かしたまちづくりの展開方向を考察

街道が持つ「繋ぐ」「結ぶ」という機能を活かし、街道沿いの市区町村が連携して取り組むまちづくりの展開を考察するきっかけとして、事例報告と有識者を含むパネルディスカッションで構成されるフォーラム形式で連絡会議を開催する。

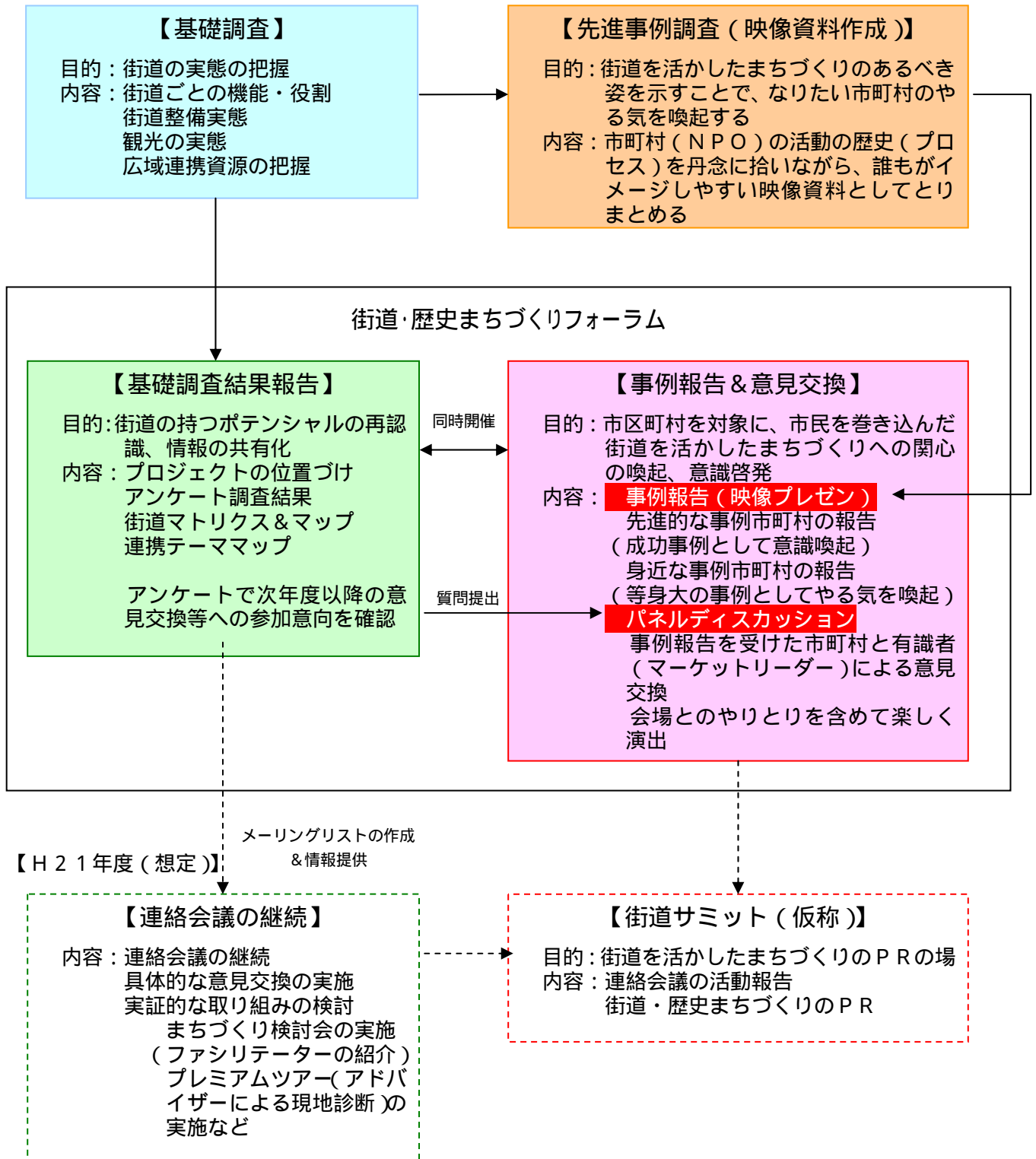
事例報告においては、成功事例だけでなく、発展途上の事例もピックアップし、まちづくりの経過（きっかけ、キーマン、工夫、課題など）を調査し、成功のプロセスを示すことで、関係市町村のやる気を引き出す工夫を行う。

事例報告にあたっては、多数の関係者がまちづくりに関わっていることから、それぞれの立場からの意見を聴取するとともに、街道や歴史資源をビジュアルに示しながら、まちづくりの展開を学ぶことで、参加者の理解が進むことから、地域のキーマンの取材、資源の撮影を行い、まちづくりのシナリオにそった編集を行った簡易映像を作成し、会場で上映した。

また、具体的なまちづくりの展開方法について、有識者（マーケットリーダー：旅行業者、雑誌編集者など）と事例市町村、国との意見交換（パネルディスカッション）によってイメージを具体化させた。

(2) 連絡会議の実施フロー

連絡会議の開催目的をもとに、基礎調査結果と先進事例調査（映像資料作成）を反映した、フォーラム形式での連絡会議の実施フローを検討した。



(3) 事例の選択

広域首都圏内の市区町村で街道及び地域の歴史資源を活かしたまちづくりを実施しており、ある程度の活動の蓄積と対外的な認知・評価が得られている事例を抽出し、報告事例の選択を行った。

以下の事例報告候補市区町村から、30年来の活動の蓄積があり、伝統的建造物群保存地区指定もなされ、多くの観光客が訪れている川越市を評価の高い成功事例として選択した。

また、街道沿いの複数の市町村が連携した取り組みであり、連携のテーマが「麺」とユニークであり、他の市区町村でも多様な連携のあり方を検討するうえで参考となる事例として、例幣使街道沿いの市町村を選択した。

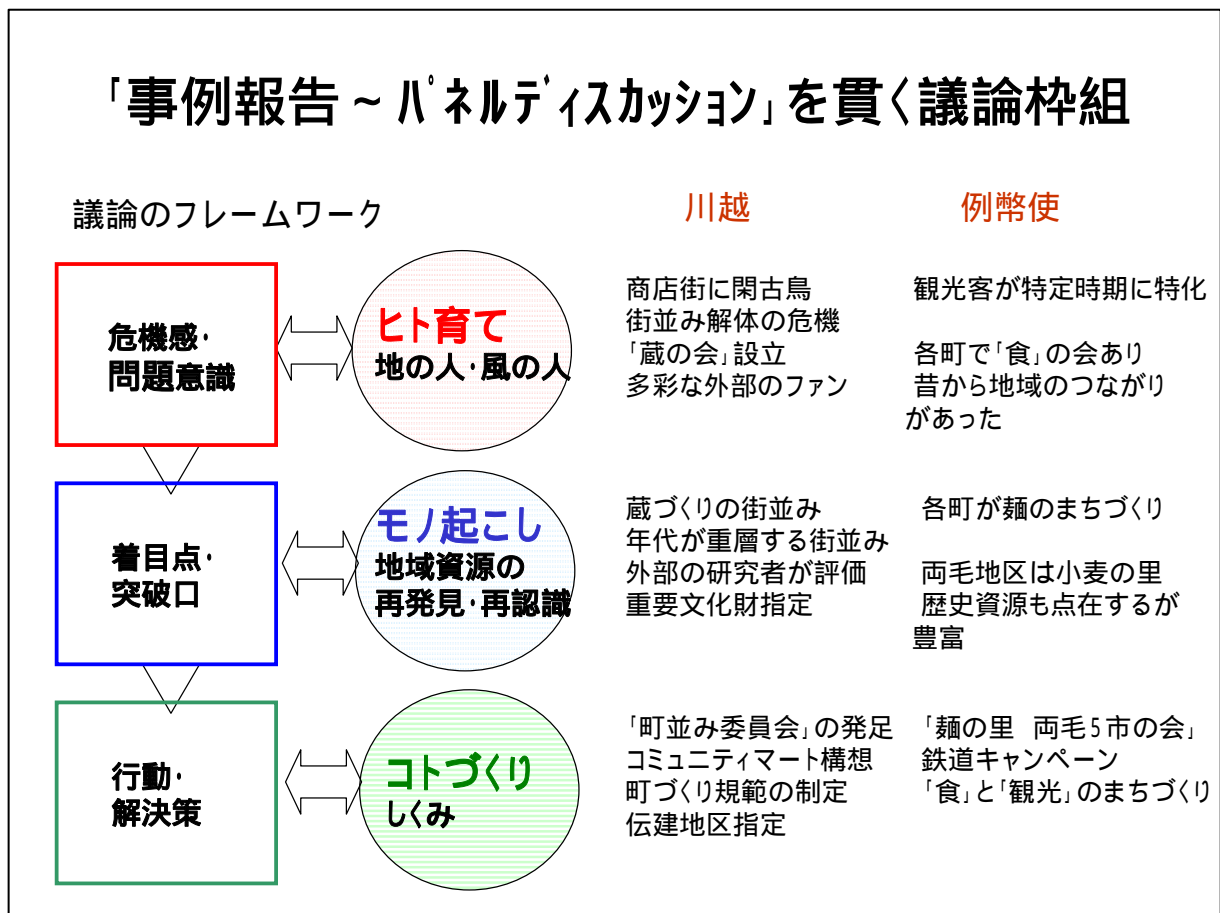
事例報告候補 比較表

事例候補	ポテンシャル	まちづくりの内容	事例報告の視点
川越市 (城下町)	<ul style="list-style-type: none"> 東京から最も近い、古い町並みを残す城下町(蔵の街) 大学の研究フィールド 	<ul style="list-style-type: none"> 商店街を中心とした町並みの保存活動「まちづくり規範」&「町並み委員会」 電線類の地中化、街路整備等による町並み形成 多くの観光客が来訪 	<ul style="list-style-type: none"> 民間と行政の連携によるルールづくりの大切さ 商業(生活)を基軸とした町並み保全と来訪者誘致のバランス 成功事例として評価は高いが、取り組みのハードルも高いか?
栃木市 (例幣使街道)	<ul style="list-style-type: none"> 例幣使街道の宿場町として伝統的建造物が多く残る町並み(蔵の街) 	<ul style="list-style-type: none"> 蔵の保存と活用 巴波川的环境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 町並みの保全・復元による地域づくりの好事例 成功事例として評価されるが、川越と内容が被る
両毛地区 (例幣使街道)	<ul style="list-style-type: none"> 例幣使街道沿いの市町村のつながり 知名度の低さをバネにした取り組み 例幣使街道沿いの資源マップの作成(一部市町村) 	<ul style="list-style-type: none"> 「麺」をテーマにまちおこし団体が連携(行政、鉄道事業者も参加) 鉄道事業者とのタイアップキャンペーン(地域の歴史資源も紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> 民間の発意による地域連携の好事例 鉄道事業者とのタイアップのヒント 連携のテーマはいかようにでもなる(どんな地域でも工夫可能)といった意味での地域活性化の好事例 地域の歴史資源とのつながりは今後の課題 川越との対比により取り組みの幅を示せる
取手市 (水戸街道)	<ul style="list-style-type: none"> 水戸街道の宿場町としての歴史(本陣が残る) 東京芸術大学取手校の立地 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術の杜のまちづくり(宿場町商店街ゾーンの創造) 地場産品統一ブランド「美し国・取手宿」の立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携による地域計画づくり ブランド形成による価値の向上 計画段階であり、整備はこれから
品川区 (東海道)	<ul style="list-style-type: none"> 東海道の第一宿場町としての歴史 ハード面が整備されている(公園、トイレ、橋詰広場、街灯、電線地中化、ユビキタス) 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり協議会を中心に、マップの発行、お休み処・交流館等の拠点整備と運営、まちの歴史や由来が分かる案内看板の設置 ユビキタスの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史資源の案内(ハード面の整備)の好事例 商店街や社寺を巻き込んだイベント開催等、活性化の仕組みについては確認が必要 ハード面の整備に特化している可能性がある
小諸市 (北国街道)	<ul style="list-style-type: none"> 北国街道沿いの古い町並み(本陣が残る) 	<ul style="list-style-type: none"> 小諸宿周辺の修景整備 NPO 法人町並み研究会による町並みデザインブックの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 町並みの保全・復元による地域づくりの好事例 取り組みは盛んであるが、川越と内容が重なる

(4) 連絡会議の論点整理

連絡会議をフォーラム形式で開催するにあたり、事例報告からパネルディスカッションにわたる論点をあらかじめ整理し、関係者間で意識の共有化を図ることで、テーマを絞った実質的な議論が進むように検討した。

具体的な、論点については下記に示すとおりであるが、大きく「ヒト育て」、「モノ起こし」、「コトづくり」の3つのキーワードから川越、例幣使街道それぞれの事例を素材に意見交換を進めていくこととした。



2 - 2 連絡会議資料の作成

2 - 2 - 1 基礎調査結果説明資料作成

基礎調査結果説明資料として、資料 として1-2 アンケート調査結果の抜粋（A4版14ページ）資料 として1-3 街道の道筋及び広域連携資源等の整理に基づく街道マトリクス&マップ（A4版A3版まじり90ページ）資料 として2-2-2に基づく連携テーママップ（A4版A3版まじり10ページ）の3分冊の資料を作成・印刷し、会場で参加者に配布した。

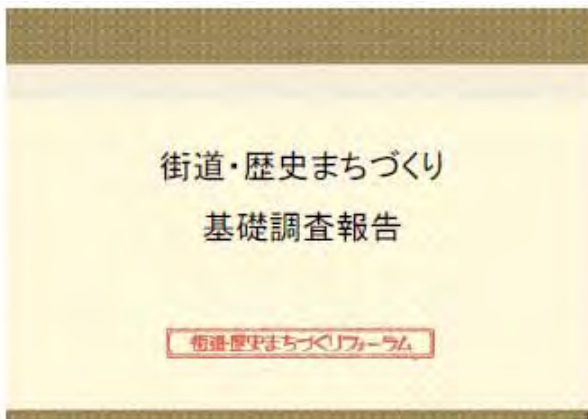
以下に、それぞれの資料の表紙を添付する（内容については上記の各章に記載されているため割愛）。

また、基礎調査結果について、限られた時間のなかで参加者に理解してもらうために、内容を適宜抜粋したPPT資料を作成し、説明内容をテキストで検討した。

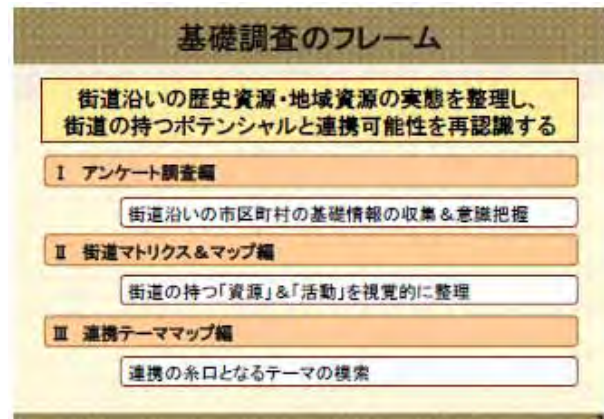
当該資料については、次ページ以降に添付する。



(2) 基礎調査結果説明用 PPT



それでは、続きまして、街道及び地域の歴史資源を活かしたまちづくりに関する基礎調査結果についてご報告させていただきます。
お手元の、基礎調査結果資料のⅠ、Ⅱ、Ⅲの3冊の資料をご覧ください。

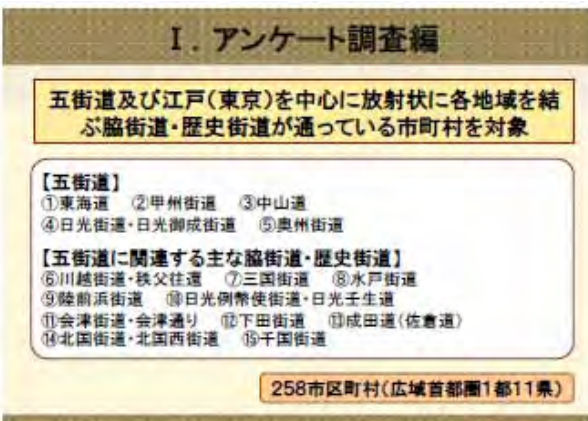


基礎調査は、街道沿いの歴史資源・地域資源の実態を把握・整理し、街道の持つポテンシャルを再認識するとともに、街道を通じた地域連携の可能性を探るために実施したものです。

結果報告は大きく3編に分かれておりⅠアンケート調査編では、**■**広域首都圏1都11県内の258市区町村を対象に実施したアンケート調査結果についてご報告します。

Ⅱ街道マトリクス&マップ編では、**■**街道の持つ「資源」と街道の歴史資源を活かした「活動」について、視覚的なマップにとりまとめた結果についてご報告します。

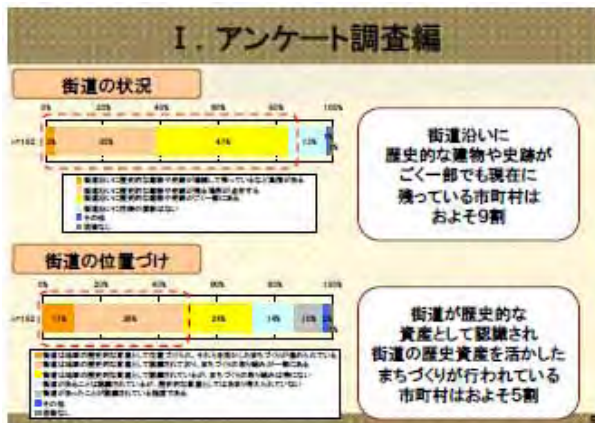
Ⅲ連携テーママップ編では、**■**街道を通じた連携の可能性を考えるヒントとして設定した連携テーマの例についてご提案させていただきます。



では、アンケート調査結果についてご報告します。
今回のアンケート調査の対象とさせていただいたのは、五街道及び江戸(東京)を中心に放射状に各地域を結ぶ脇街道・歴史街道が通っている258市区町村です。
複数の街道にまたがる市区町村もございますが、今回は便宜的に資料の1ページの図にもありますように、15の街道に分けて取りまとめています。



調査対象とした街道の位置図です。
広域首都圏内を網の目のように結んでいます。
今回、時間的な制約や当方の知識不足などから、十分に調査できなかった街道もございます。
それらについては、今後の課題とさせていただきたいと思っております。



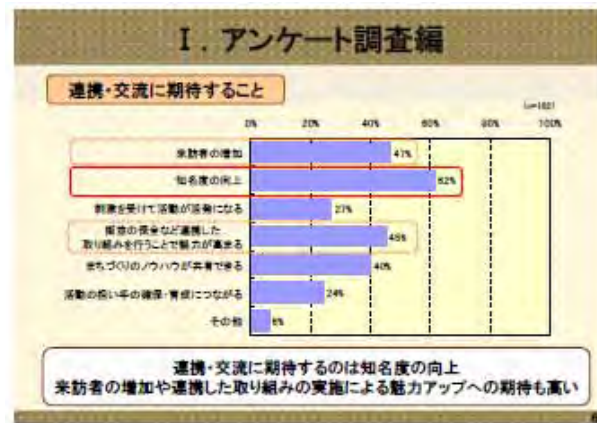
それでは、アンケート調査結果のうち、主なものについてかいつまんでご説明させていただきます。

詳しくは、後ほど、お手元の資料をご覧ください。

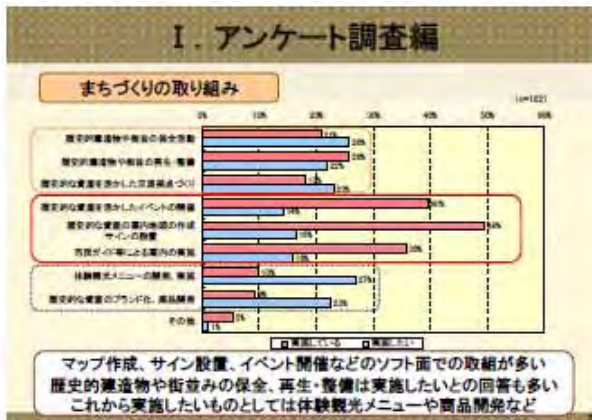
街道沿いの歴史的な建物や史跡の状況ですが、「連続してこれらが残る、風情がある」との回答は3%に止まりますが、「点在」あるいは「ごく一部に残る」を加えると■およそ9割となり、ほとんどの市区町村に何らかの資源があることとなります。

また、街道を地域の歴史的な資産として認識し、それらをいかしたまちづくりについては、■およそ5割の市区町村で実施されています。

なお、分析は、対象街道が通過している239市区町村のうち、ご回答いただいた182市区町村(回収率76%)について行っております。



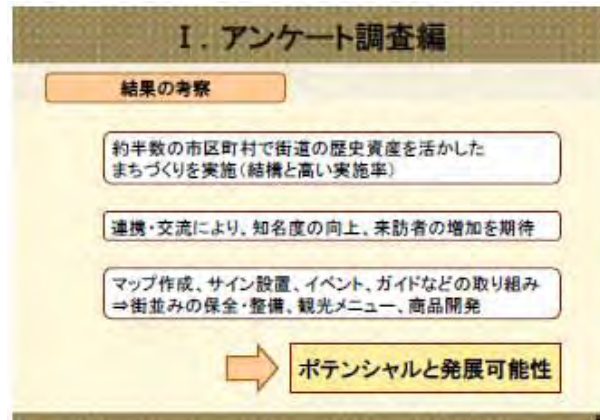
次に、お手元の資料では6ページになりますが、街道を通した連携・交流に期待することとしては、■知名度の向上が最も多く、次いで■来訪者の増加や連携した取り組みの実施による魅力アップへの期待も高くなっています。



次に、資料の11ページになりますが、地域の歴史資源を活かしたまちづくりの取り組み状況としては、■マップ作成、サイン設置、イベント開催、市民ガイドなどソフト面での取り組みが多くなっています。

■歴史的な建物や街並みの保全、再生・整備は「実施している」と「実施したい」それぞれが多くなっています。

また、現在はあまり実施されていないものの、今後「実施したい」ものとしては、■体験観光メニューや商品開発などがあげられています。



アンケート調査結果をとりまとめると、多くの市区町村に街道沿いの歴史資源が残り、それらを活かしたまちづくりの取り組みが実施されていること。

連携・交流によって、知名度の向上や来訪者の増加を期待していること。

マップ作成、サイン設置、イベント開催、ガイドなどの取り組みに加えて、街並みの保全・整備、観光メニューや商品開発を指向するなど■ポテンシャルと発展可能性があることが伺われます。

Ⅲ. 連携テーママップ編

街道の持つ「資源」と「活動」を俯瞰し、
広域的な連携・交流の糸口を探るテーママップの作成

テーマの創出 ～隠れた資源の掘り起こし

- 価値は高いが、知名度は低い
- 地域では大切にされているが、来訪者には着目されない
- かつての暮らしや風物にふれることができる
- 自然資源とのつながりにより魅力が高まる

→ まちづくり活動との連携により
新たな魅力が生まれる

続いて、連携テーママップについてご説明します。

お手元の資料Ⅲをご覧ください。

連携テーマを設定する意味合いとしては、それぞれのまちが持っている「資源」と「活動」を、街道を通してつなぐといった視点で俯瞰し、広域的な連携・交流の糸口となるテーマを見つけ出す（創出する）ことにあります。

知名度が低い、来訪者に着目されないといった隠れた資源を、かつての暮らしや風物、地域の自然、まちづくり活動などさまざまな資源と結びつけることで、魅力を高め、来訪者の誘導につながることを期待されます。

Ⅲ. 連携テーママップ編

連携により、さまざまなまちづくりの効果が
発揮されることが期待

連携により発揮が期待される効果

- 埋もれている資源の発掘
- 街並み整備など、各市区町村の資源の質の向上
- 体験観光ガイドや物産など「街道観光」としての広がり

→ 対外的なアピール力の向上

また、複数の市区町村が連携して、これらのまちづくりに取り組むことにより、埋もれている資源が発掘され、街並み整備などによって資源の質が高まったり、体験観光ガイドや物産など「街道観光」としての広がりによって、対外的なアピール力が高まることを期待されます。

Ⅲ. 連携テーママップ編

奥州街道 ～街道ゆかりのアート&デザインの探訪



連携テーママップの一つの例ですが、隠れた資源を結ぶ可能性として、奥州街道の連携テーマの設定例を紹介します。

「街道ゆかりのアート&デザインの探訪」とありますが、これは、人とモノが行き来する街道に集積した富と文化が、身の回りの調度や建物、街並などにさまざまな意匠として表れている資源をつなごうといったテーマです。

単独では、価値を感じとりづらい資源も、街道を通して連携することで、江戸以来の時間が熟成した一連のアート&デザインとして、大きな価値を放つことが期待されます。

Ⅲ. 連携テーママップ編

街道のポテンシャルを活かした
テーママップの作成例

- 中山道 ～旅籠に泊まる
- 日光街道 ～日光東照宮へと繋がる彫刻を巡る
- 奥州街道 ～松尾芭蕉のゆかりの地を巡る
- 三国街道 ～街道ゆかりの祭りを楽しむ
- 日光例幣使街道 ～麵街道と“腹ごなし”の散歩道を訪ねる
- 千国街道 ～自然の隠し絵を探しながら塩の道を歩く

お手元の資料Ⅲには、連携テーマの例として、いくつかのアイデアをお示ししています。

旅籠に泊まったり、東照宮へと繋がる彫刻を辿ったりすることで、かつての風物に触れたり、街道ゆかりの祭りや麵を楽しんだりといったように、街道の持つさまざまな魅力を感じてもらえるような連携テーマが考えられると思います。

基礎調査結果のまとめ

連携・交流の可能性を見出す

地域間の連携

街道沿いのまちがテーマを持ち寄って連携

地域内の資源の連携

歴史資源、街並み、ソフト施策などの組み合わせ

担い手の連携

行政、商店街、NPOなど活動の担い手の連携

基礎調査結果のまとめ

事例報告に向けて

地域間の連携

【川越】

⇒蔵造りの町並み&商店街
⇒行政&民間のルールづくり

地域内の資源の連携

【日光例幣使街道】

⇒民間発の麵のまちづくりの連携
⇒行政&民間&鉄道事業者の
タイアップ

担い手の連携

最後に、基礎調査結果をとりまとめさせていただきます。
街道沿いには、さまざまな資源があり、各市区町村でまちづくりの取り組みが行われています。

これらの資源や活動を、街道をテーマに結びつけることで、さまざまな連携・交流の可能性が発掘できると思われます。

連携には、**■**街道沿いのまちがテーマを持ち寄って連携する「地域間の連携」、**■**まちなかの歴史資源や街並み、ソフト施策などをさまざまに組み合わせる「地域内の資源の連携」、**■**行政だけでなく、地元の商店街、NPOなど活動の「担い手の連携」といったように、さまざまなパターンがあつてよいと思います。

この後、第Ⅱ部として、事例報告があります。

■川越は、蔵造りの町並みを活かしたまちづくりを展開しており、地域内の資源の連携及び担い手の連携の好事例といえます。

■日光例幣使街道は、5市種の会として、麵のまちづくりをキーワードに、地域の歴史源との連携を模索しています。

事例報告にご期待ください



■これで、基礎調査結果の報告を終わらせていただきます。
引き続き第Ⅱ部の事例報告にご期待ください。
ご清聴ありがとうございました。

2 - 2 - 2 連携して取り組むべき施策の提案に向けた資料作成 (1) 連携テーママップの作成方針

連携の糸口を探るテーママップの作成

街道沿いの歴史資源には、全国的にも広く知られる知名度の高い資源がある一方で、地域では大切にされているものの、知名度が低く、来訪者から注目されることの少ない資源があることが予想される。

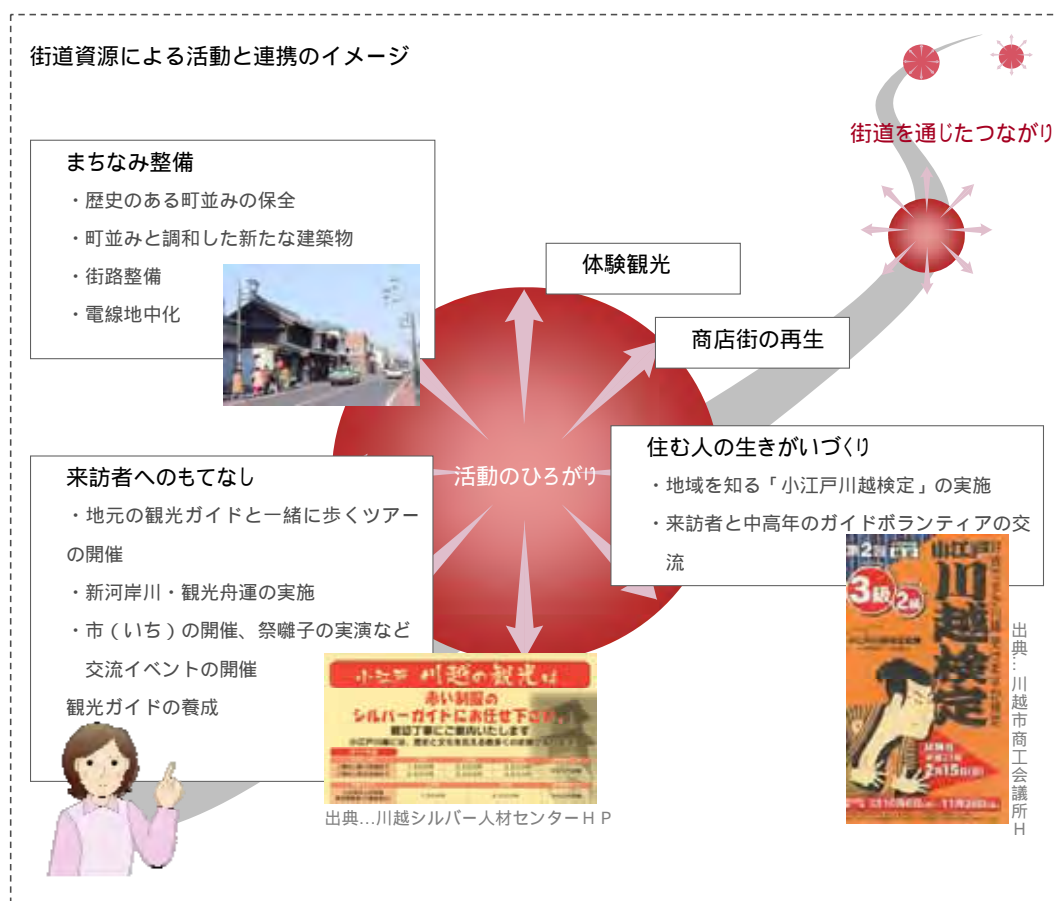
このような、隠れた資源を発掘し、これらの資源を持つ街道沿いの市区町村同士が連携することで、地域づくりのさまざまな効果が発揮されることが期待される。

【連携により発揮が期待されるまちづくりの効果】

- ・まちなみ整備など、各市町村の資源の質の向上
- ・埋もれている資源の発掘
- ・体験観光ガイドや物産など「街道観光」としての広がり
- ・対外的なアピール力の向上

これらの観点から、街道ごとの整備実態調査及び街道マトリクス&マップ作成の過程で抽出された各街道の歴史資源をもとに、地域の他の資源との組み合わせも考慮しながら、連携の糸口となるテーマを検討し、それらの連携イメージを表現したものが連携テーママップである。

なお、連携テーマについては、必ずしも地域の実情を反映したものではないかもしれないが、連携を考えるうえでの、たたき台（ヒント）として例示したものである。

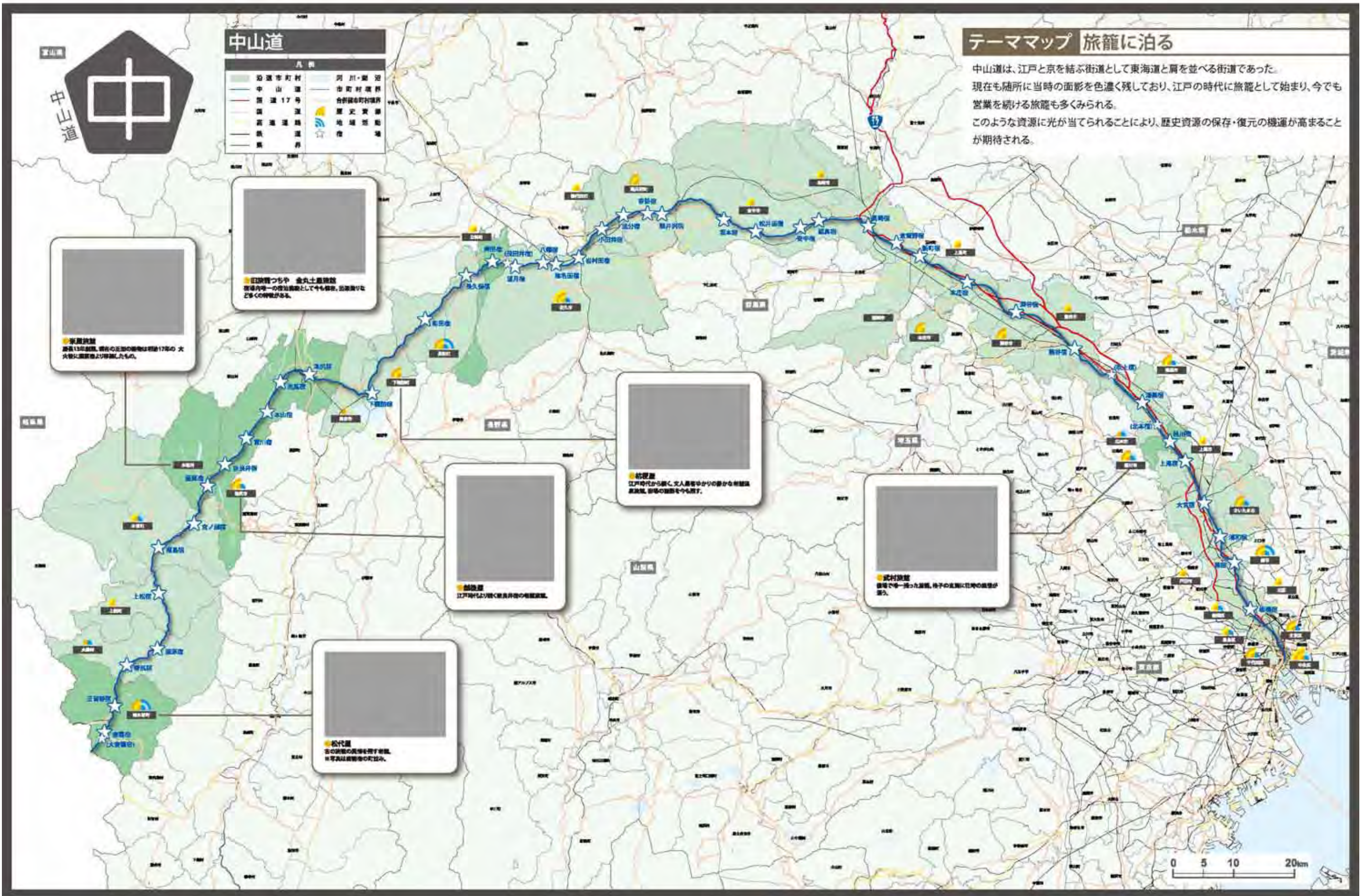


(2) 連携テーママップの作成

連携テーママップの作成方針に基づき、下記の街道について、街道の歴史資源と地域の様々な資源を組み合わせることで、かつての風物に触れたり、ゆかりの事物を楽しんだりといったように、連携によって街道の持つ多面的な魅力を感じることができるとともに、街道のオリジナル性を高めることができるようなテーマを設定し、関連する地域の資源を結んだテーママップを作成した。

街道名	連携テーマ	連携のねらい
中山道	旅籠に泊る	中山道は、江戸と京を結ぶ街道として東海道と肩を並べる街道であった。 現在も随所に当時の面影を色濃く残しており、江戸の時代に旅籠として始まり、今でも営業を続ける旅籠も多くみられる。 このような資源に光が当てられることにより、歴史資源の保存・復元の機運が高まることが期待される。
日光街道	日光東照宮へと繋が る彫刻を巡る	日光街道の目的地である日光東照宮には、「眠り猫」や「三猿」に代表される彫刻が数多く存在する。 街道途中の社寺にも、日光東照宮の影響から様々な彫刻が施され、祭りの際には彫刻が装飾された屋台が練り歩くなどの文化・風習が残っている。 これらは、技巧面・芸術面のすばらしさだけではなく、現代の我々からすると少々滑稽にも感じられる逸話や架空の動物を具現化する想像力の豊かさといった点からも大変魅力的である。 ちょっと寄り道をして各地の彫刻に触れてから日光東照宮へ向かうことで、より深く街道を味わえるようになる。
奥州街道	松尾芭蕉ゆかりの地 を巡る	元禄2年(1689年) 弟子の河合曾良を伴って奥の細道の旅に出た俳人・松尾芭蕉(1644-1694)は奥州街道の各地に足跡を残している。 句に詠まれた場所、句碑、「奥の細道」に描かれた風景など、奥州街道各地に資源があるが、比較的好く知られるものだけではなく、地域に大切にされながらも外部にはあまり知られていない資源の発掘、復興も期待される。
	街道ゆかりのアート & デザインの探訪	人とモノが行き来する街道には、富のやりとりがあり、文化が集積される。 絵画などの美術だけではなく、身の回りの調度や建物、街並みなどに奥州街道の歴史が生んださまざまな意匠を見ることができる。 単独では、価値を感じ取りづらい資源も、街道を通じ連携することで、江戸以来の時間が熟成した一連のアート、デザインとして、大きな価値を放つことが期待される。

街道名	連携テーマ	連携のねらい
三国街道	街道ゆかりの祭りを楽しむ	<p>街道には、古くからの暮らしの中で生まれた祭りが多くある。街並みは昔と変わってしまっているが、こういった祭りの中に往時の暮らしをうかがうことができる。</p> <p>街道とこれらの祭りを結びつけることにより、一つ一つの資源の魅力を高めるとともに、街道を通じた新たな展開も期待される。</p>
日光例幣使街道	麵街道と”腹ごなし”の散歩道を訪れる	<p>日光例幣使街道で結ばれる群馬・栃木の両毛地区は、古くから経済・文化のつながりが強い。</p> <p>平成16年には、各市のご当地麵によるまちづくり組織「麵の里両毛5市の会」を発足し、鉄道事業者とのタイアップによるPRなどの活動を行い、知名度を上げている。</p> <p>来訪者にはラーメン、焼きそばなどご当地麵を食べるだけでなく、まちなかを歩いて回遊することを促し、人と交流し、地域に大事にされている街道資源に触れてもらう環境をつくってゆく。</p> <p>麵街道のルーツとしての例幣使街道による文化のつながりを体感する、魅力的な散歩道を各地に増やすことが期待できる。</p>
千国街道	自然の隠し絵を探しながら塩の道を歩く	<p>千国街道はフォッサマグナと呼ばれる本州を大きく分断する大断層の地溝帯を歩き、戦国の時代から日本海と信濃を結ぶ重要な産業道路の歴史を持っている。</p> <p>白馬三山からの吹きつけが狭隘な道をさらに容赦なく厳しいものとさせていた、そんな険しい道の途中、眺めの良い場所や木々の合間から見える絶景と自然が織りなす何とも不思議な風景に、旅人はほっと一息ついていたのではないだろうか。</p> <p>すでに知られている有名な眺めだけでなく、外部には知られていない「自然の隠し絵」の発掘と街道沿いに点在する歴史資源とを併せて訪れることで、街道全体の魅力と価値を向上させることが期待できる。</p> <p>また、街道を通しての魅力と価値が高まることで、写真やアートと関連し、連携することで相乗効果の糸口を紡ぎ出すことが期待される。</p>



2 - 3 連絡会議の検討方針

2 - 3 - 1 参加者のニーズ

連絡会議の意見交換の結果や参加者アンケート結果を受けて、参加者（市区町村）の連絡会議等に対するニーズを以下のように整理した。

街道・歴史まちづくりの方向性の確認

首都圏広域地方計画が策定中ということもあり、街道・歴史まちづくりがどのような位置づけにあり、今後制度化などがなされるのかといった基本的な方向性の確認が求められている。

また、首都圏広域地方計画推進協議会及び連絡会議の位置づけや今後の方向性について知りたいとする意見がある。

街道・歴史まちづくりの情報提供

街道・歴史まちづくりについて認知を高めることにより、多くの自治体や住民の参加を期待する意見がある。

また、連絡会議で提示した基礎調査結果（アンケート調査結果、街道マトリクス&マップ）について、広域首都圏内の市区町村に広く提示したり、成功事例の紹介を行うことなどにより、街道・歴史まちづくりの情報を広く提供していくことが求められている。

連携のための意見交換の場の設置

街道や地域の歴史的な資源の活かし方や連携のあり方をテーマに意見交換することで、市区町村間の横のつながりを志向する意見がある。

連絡会議で提示した連携テーママップに興味を抱き、自らの地域性に即した連携テーマを設定する重要性を感じるなど、意見交換の場や機会を設置することが求められている。

街道・歴史まちづくりの支援策

街道・歴史まちづくりの対象や受けられる支援制度など、制度的な枠組みを知りたいとする意見がある。

既往制度の整理や街道を活かした取り組みに対する支援策のマッチングなど、地域のニーズに即した支援策を検討することが求められている。

2 - 3 - 2 連絡会議の検討方針

街道・歴史まちづくりの方向性の明確化

街道・歴史まちづくりがプロジェクトとして何を指すのか、商業活性化やコミュニティ形成、文化財保護、観光振興等多様な目的が考えられる中で何を重視するのか等目的を明確化していくこととする。

また、協議会及び連絡会議の位置づけと方向性を整理し、街道・歴史まちづくりに参加する市区町村が、制度や会議の枠組みについて理解できるように検討する。

意見交換の場の設置

地域自らが考え、行動に移すためのきっかけづくりとなる意見交換の場として、意欲のある市区町村やNPO等のまちづくり団体が集まって意見交換や先進地視察などを行う機会を設けることを検討する。

意見交換のテーマとしては、地域性に即した連携テーマの設定、連携してどのような取り組みができるかといった具体的なまちづくりの可能性の追求などが考えられる。

支援・制度の枠組みの検討

意見交換の場での意見や街道・歴史まちづくりに対するニーズの把握等から、地域が求める支援ニーズを体系的に整理するとともに、既往制度のメニューの整理と支援ニーズとのマッチングを検討する。

また、地域の相談窓口の設置など、相談体制の拡充を検討する。

街道・歴史まちづくりに対するニーズの把握

街道・歴史まちづくりに求められているもの、来訪者の訪問可能性、マーケット等のニーズを把握し、まちづくりの展開や支援策を検討する際の基礎資料を収集することを検討する。

連絡会議参加者のニーズをもとにした今後の検討方針

参加者のニーズ

連絡会議の検討方針

